

令和元年度 第5学年 国語科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の特徴や使い方に関する事項では、学習した漢字を普段から文章に入れて書くことが苦手である。 話すこと、聞くことでは、資料を活用するなどして、自分の考えを伝えようと意欲的に取り組むが、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えて話すことに課題がある。 書くことでは、文章全体の構成を考えることに課題がある。 読むことは、人物像や物語などの全体像を具体的に想像することが比較的得意な児童が多いが、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが苦手な児童が多い。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を普段から使えるようになること。 事実と感想、意見を区別して話をする。 文章全体の構成を考えながら、文章を書くこと。 読んだ文章をもとに、自分の考えをまとめること。 	
<p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動を通して思考力、判断力、表現力を育む。 読むことを通して登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えること。 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 	
<p>【授 業 改 善 策 】</p>	<p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる時間をとる。 場面の様子が分かりやすいように、絵や図を使って視覚的に理解できるようにする。 心情や場面の様子伝わるように音読することができる。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： <u>すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう 「大造じいさんとがん」</u></p> <p>指導時間： <u>7</u> 時間 指導時期： <u>10</u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の中心である、「大造じいさん」の人物像を捉えさせる。 大造じいさんの心情の変化を表す言葉をみつけ、人物についての自分の考えを伝え合わせる。 情景描写について理解させるとともに、情景描写に「色」が使われている「効果」について考えさせる。 場面ごとに小見出しを考えさせ、段落ごとの理解につなげる。 表現のよさを知るために、印象に残った表現（心情）（動き）（情景）について伝え合う。

令和元年度 第5学年 社会科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料集、動画教材をもとに、意欲的に調べようとする児童が多い。 ・学習内容と実生活が結びつくと、学習への関心・意欲が高まる児童が多い。 ・社会科を「好き」と感じている児童が少ない。 ・学習した事柄の理解や定着が低い児童もいる。 ・学習した内容を基に、自分で考察することが苦手な児童が多い。 ・授業での様子や評価テストの結果から、地図や資料から読み取ったことを課題解決に活用することが苦手な児童が多い。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に主体的に取り組むこと。 ・様々な資料や調査活動を通して、情報を適切にまとめること。 ・学習した事柄を理解し、課題解決に向けて活用すること。 	
<p>重点的に育成すべき【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる能力。 ・考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすること。 ・主体的に学習の問題を解決しようとする態度。 	
<p>【授業改善策】</p>	<p>授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な資料を多く活用する。 ・調査活動のあとに情報をまとめ、自分の意見を発表する場を作り、学習の定着を図る。 ・資料の読み取る機会を多く設定し、時間も十分に確保する。
	<p>実践する単元</p>	<p>単元名： <u>工業生産を支える人々</u> 指導時間： <u>25</u> 時間 指導時期： <u>1</u> 月頃</p>
	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や見学など、具体的な体験を伴う学習の場を設定する。 ・学校図書館やコンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うようにする。 ・各種の資料から読み取れる情報について確認をし、資料を適切に読み取ることができるようにする。 ・消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について自分の考えをまとめることができるようにする。 ・考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど、言語活動に関わる学習を一層重視する。

令和元年度 第5学年 算数科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習を積極的に取り組み問題への挑戦意欲が見受けられる。 ・全体での課題解決の場で、積極的に参加していこうとする児童と、自分の考えに自信がもてないという理由で意欲的な態度を示さない児童も見受けられる。ノートをとることを苦手とする児童がいる。言語理解と言語力に自信がもてない児童が多い。 ・学力差が大きく、定規やコンパス、ノート作りなどの基礎的な技能や意欲にも個人差がある。総体的に学びに向かう力が十分ではない。 ・演算における筆算や計算方法の理解が十分ではない。 ・文章を読み取る力が不足しており、単位の意味を十分に理解していないために、単位計算の力が十分に身につけていない。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的なテープ図や数直線、式、筆算を関連付けて考えを整理させ、全体での共有で理解を確かなものにする。 ・テープ図や数直線、式を根拠に説明すること。 ・演算のくり返しを行うことを通して計算力を付けること。 	
<p>↓ 重点的に育成すべき【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての豊かな感覚。 ・数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力。 	
<p>【授業改善策】</p>	<p>↓ 授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の際に、簡単な図や補助線を描く活動を取り入れる。 ・自力解決の時間を十分確保し、図・式・言葉を用いて自分の考えを説明する機会を設ける。話形の「最初に」「次に」「さらに」「最後に」の言語の流れを具体化し伝え合う学びの場を作る。 ・既習事項にふり返り機会をたくさん設ける。
	<p>実践する単元</p>	<p>単元名： <u>百分率とグラフ</u></p> <p>指導時間： <u>12</u> 時間 指導時期： <u>1</u> 月頃</p>
	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線の「演算決定の根拠としての機能」に着目させ、根拠を基に立式したり、立式の根拠について説明したりする。 ・「比べる量＝もとにする量×割合」といった公式のようなものを暗記して答えを求めるのではなく、問題場面を捉えながらその意味を考えて立式し、答えを求められるようにする。 ・全体での解決の場面で自分の考えをうまく表現できないときには、他の児童が不十分な部分を補う、リレーのように発言を繋いでいくなどしながら、図を使ったり簡単な数字に置き換えたりして説明ができるようにする。

令和元年度 第5学年 理科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然事象への興味関心については個人差がある。 ・実験、観察では、表面上の現象しかとらえず、他と比較し、疑問をもち追求していくことを苦手としている児童が多い。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題意識をもって観察や実験をすること。 ・比較や関係付けをしながら思考すること。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を基に、解決の方法を発想するといった問題解決の力。 ・自然の事象を、観察、実験の過程から導き出した結論から意味付けたり、関係付けたりする力。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【 授 業 改 善 策 】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を基に、解決の方法を話し合わせる。 ・実験結果から、自然事象の再現性や規則性などの観点を与え考察させる。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： _____ もののとけ方 _____</p> <p>指導時間： _____ 4 _____ 時間 指導時期： _____ 1 _____ 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物が水に溶ける量に着目し、水の温度や量といった条件の制御の仕方を話し合わせる。 ・物が水に溶ける量やその変化は、溶かす物によって違うことを捉えさせ、その変化の再現性や規則性について話し合わせ、考察させる。

令和元年度 第5学年 音楽科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態> (全般) ・音楽の授業におおむね意欲的に取り組んでいる。</p> <p>(歌唱) ・望ましい発声方法で歌うことができるが、全体的には積極性が十分とはいえない。</p> <p>(器楽 主にリコーダー) ・課題に真面目に取り組み、一定の技能を習得できているが、タンギングができなかったり息づかいが不安定であったりする児童も多い。</p> <p><課題> ・高学年になり本格的な合唱に取り組むにあたり、よりよい発声方法の獲得やハーモニー感の育成を促すことのできる授業を進めていく必要がある。</p>	
<p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発声や音の重なりに対する興味・関心・意欲 ・互いのパートを聴き合いながら表現する技能 ・生涯にわたって音楽を楽しんでいこうとする心情 	
<p>【 授 業 改 善 策 】</p>	<p>授業改善の 手立て</p>	<p>教科書教材の他に、音の重なりを感じやすく、楽しんで歌うことのできる副教材を活用し、ハーモニー感を育てていく。</p>
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名：<u>いろいろな音のひびきを味わおう (COSMOS)</u> 指導時間：<u> 8 </u>時間 指導時期：<u> 10 </u>月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オブリガートの印象的な旋律をハーモニーにもつ楽曲を活用し、音の重なりを感じやすくすることによってハーモニー感を育てる。 ・児童が共感しやすい歌詞やメロディーの楽曲を選曲する。 ・ハーモニーがうまく重なった実感を数多く体験させ、達成感や音楽の楽しさを味わわせる。

令和元年度 第5学年 図工科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図工室で活動することについては非常に意欲的である。 ・同じ班の児童とアイデアを共有したり、発想や構想を教え合ったりできる児童が多い。 ・作業中は授業に関係ない話をする児童が多く、メリハリがついていない。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に作品づくりに取り組む姿勢に個人差が見られる。 ・全体的に、立体的に表現する力に欠ける面が見られる。 ・様々な種類の工具や材料にふれる経験が少ない。 	
<p>↓ 重点的に育成すべき【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現したり、鑑賞したりする活動に取り組む態度を養う。 ・造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思いつくことができる。 	
<p>【授業改善策】</p>	<p>↓ 授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図工ノートを活用して、作業工程やめあての明確化を来ない、技術的な力を身に付けさせる。 ・班ごとに話合わせ、他の児童との発想や構想を共有し、自分の作品に生かしていけるようにする。 ・新しいことに取り組みせ、主体的に考え、工夫や試行錯誤を経験しながら、作品を完成させる。
	<p>実践する単元</p>	<p>単元名： _____ いとのこドライブ _____ 指導時間： _____ 8 _____ 時間 指導時期： _____ 10 _____ 月頃</p>
	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図工ノート…工程表を貼らせる。電動のこぎりの使い方を解説する。 ・班ごとに話し合い…木材を使って、どんな形ができるか話し合い、目的をもたせて計画を作成する。 ・どのようにしたら立体物が完成できるかを考え、限られた材料を計画的につくって行く。イメージがわからない児童については、個別で対応する。 (180×300×4mmの板、電動のこぎり、ボンド、他)

令和元年度 第5学年 家庭科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の 実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習など、実技の授業への関心や意欲が高い。 ・班で協力して、安全に注意したり手順を確認したりしながら、調理実習を行うことができる。 ・裁縫で技能の差があり、できなかつたり分からなかつたりすることがあると、諦めてしまう児童もいる。 ・学習したことを家庭で生かそうとする意識に個人差がある <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手縫いの技能が定着しておらず、速度などに個人差がある。 ・家庭での実践につながっていないことが多い。 	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>重点的に 育成すべき 【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫や調理の手順や方法、用具の取り扱い等について理解し、技能を身に付けること。 ・学習したことを家庭生活とつなげ、生活をよりよくしようと工夫すること。 	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【授業改善策】</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業改善の 手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士で教え合う場面を多く取るようにする。 ・印のつけ方を工夫するなど、縫う際にわかりやすくする。 ・お手伝い表や実践の記録を作って、家庭生活とつながるようにする。
	<p>実践する 単元</p>	<p>単元名： <u> わくわくミシン </u></p> <p>指導時間： <u> 11 </u> 時間 指導時期： <u> 9 </u> 月頃</p>
	<p>単元における 具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しつけ縫いがあるので、手縫いを振り返り、縫い方の確認を再度行ってから、ミシンを実践していく。 ・ミシンの使い方などを知り、2人で1つのミシンを使うため、友達と協力したり、教え合ったりする時間を多く取るようにする。 ・「計画を立ててつくってみよう」では、効率や安全のために計画を立てる必要があることを理解させ、実践していく。 ・手縫い同様、ミシン縫いが定着できるように、準備の仕方や安全面をきちんとおさえて指導していく。

令和元年度 第5学年 体育科 授業改善推進プラン

<p>本校児童の実態と課題</p>	<p><実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業を好きと答える児童が多い。また、運動に対して意欲的に取り組む姿が見られる。 ・もっといろいろな技に挑戦してみよう、いろいろな場でやってみようという気持ちが高く夢中になって取り組むことができる一方、まだ、友達の動きや発言には興味が薄い。 ・教師が掲示したコツやポイント、その場での動きなどはしっかりと守り、習得しようと一生懸命に取り組む。 ・自ら思考して上達したり、さらに楽しく遊ぶための工夫をしたりすることは苦手である。 ・友達の動きを見合ったり、ポイントを伝え合ったりすることに課題がある。 ・グループで協力し合ったり、助け合ったりする態度に支援を必要とする。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてに向けて、運動に取り組むこと。 ・競争や記録への挑戦の仕方を工夫し、友達の良い所を見付けたり、伝え合ったりすること。 ・チームで協力して運動したり、仲間の考えや取り組みを認め合ったりすること。 	
<p>↓</p> <p>重点的に育成すべき【資質・能力】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力に適した課題を見付け、課題に応じた練習の場や段階を選ぶこと。 ・自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えたりしたことを他者に伝えること。 	
<p>【授業改善策】</p>	<p>↓</p> <p>授業改善の手立て</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間めあてをはっきり示して、自分の課題に意欲的に取り組みやすいようにする。 ・ICT機器を使い、自己の課題や、成長した場面が分かるようにする。 ・運動のポイントを教師側が理解し、具体的に伝えられるようにする。 ・協力して運動することの大切さを普段の授業から理解させる。
	<p>実践する単元</p>	<p>単元名： <u>走、跳の運動「ハードル走」</u></p> <p>指導時間： <u>6</u> 時間 指導時期： <u>10</u> 月頃</p>
	<p>単元における具体策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何が良いのか、教師がポイントを示すことができるようにする。 ・自己の課題に沿った動きができるような場をつくる。 ・学習カードにふり返りを書かせ、何が身に付いたのか、分かるように記録を残す。 ・グループで協力する時間を毎時間つくる。 ・協力して運動したり、よい動きを見付けたり、伝え合っている児童をほめる。 ・よい動きを共有する時間を毎時間とり、3つの資質、能力バランスよく育む。